

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団

第122回定期演奏会

1992年1月20日(月)PM6:00開演 ● バリオホール

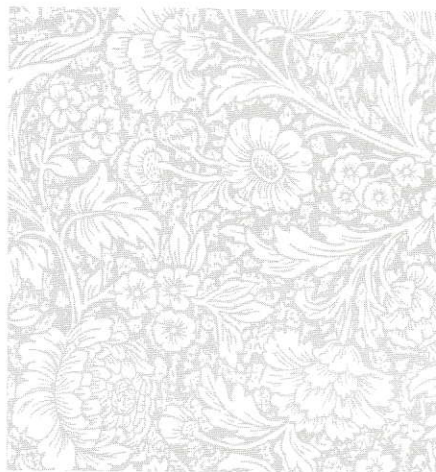
日本作曲家協議会による出品13作が集う

邦楽器の祭典

パートIII

主催＝日本音楽集団
(社)日本作曲家協議会

芸術文化振興基金助成事業



芸術文化振興基金

ごあいさつ

邦楽器の祭典も、今年で3回目をむかえます。日本作曲家協会の作曲家の皆さんと、日本音楽集団の演奏家による共同作業により生まれた作品も、本日の13曲を含め42曲を数えるに至りました。

そこにはさまざまなタイプの音楽と、邦楽器のユニークな世界の展開と可能性をみることができます。この出会いの心を大切に、お互いの交流をより一層深めてゆきたいと思っております。

日本音楽集団 長 沢 勝 俊

今昔の感

日本作曲家協会の会員が無償で邦楽器の新作を毎年提供し、日本音楽集団の団員が同じく無償で演奏する。当面无償で残念だけど、この意欲が衰えることなく毎年続けば、きっと名曲が輩出することでしょう。

私事ですが、日本音楽集団創立に先立って、全ての邦楽器が参加する運動を私が説きはじめてのは丁度30年前、その頃を想うと今昔の感があります。

この祭りの一曲一曲は短いけれど、一人の作曲家が何回分かを連ねる構想があれば、いずれまとまった作品として上演もできます。長短合わせ、本当の祭典はもう直ぐなのです。

日本作曲家協会副会長 三 木 稔

1. 未 樹 澤

正の輪舞——邦楽アンサンブルによる(初演)

障害のある・なしを問わず、幼児からお年寄りまで世代を越えて音楽を遊ぶという趣旨の団体を主宰して4年。その中に、邦楽器による生演奏を素材にしたカリキュラムもあります。その原点は、私が一昔前に所属していた「日本音楽集団」での体験があったからです。そして今夜の祭典——正という字は一に止まると書く。一とは原点、要するに自分自身。つまり本来の自分への回帰——模索中の「音楽の原点」を、祭り好きな自身に問う輪舞(ロンド)風な小品になりました。

[篠笛] 竹井誠 [尺八] 米澤浩・石田忠史
[三味線] 野口美恵子 [琵琶] 山田まゆ美
[二十絃箏] 熊沢栄利子・桜井智永 [十七絃] 宮越圭子
[打楽器] 細谷一郎 [打楽器・指揮] 未樹澤

企画・構成= 三木 稔

実行委員= 池辺晋一郎

北 爪 道 夫

長 沢 勝 俊

司会= 山本直純

2. 栗 山 和 樹

尺八とコンピュータのための「破竹」(初演)

1人の尺八奏者と1人のコンピュータ奏者によって舞台上でリアル・タイムに演奏されるこの曲は尺八の迫力ある奏法、多くの可能性を含んだ音程表現や多彩なニュアンスを表現できる尺八の魅力をリアル・タイムという環境によって、従来の電子音楽でよく使われるテープに固定された“時間”という枠を取り除き、新しい可能性を付加することにより、最初の節を割ると後はたやすく割れていく「破竹」の様子を表現しようとしています。

[尺八] 三橋貴風
[コンピュータ] 栗山和樹

3. 松 永 通 温

「虹の糸」三絃と二面の箏のための

昭和56年から7年間に在職した高崎短期大学音楽科の第1期生達が、昭和61年8月に東京のOAGホールでコンサートを催すにあたり委嘱を受けて作曲した。三絃と2面の箏のための作品である。日本の叙情が、伝統的な音楽では、旋法等の制約を受けて必ずしも的確に表現しきれていないことがあるように思っていたので、自由な音の使い方を書いてみた。

[地歌三味線] 工藤哲子
[箏] 花房はるえ・山田明美

4. 西田由美子

夢(初演)

夢から醒めて、はっとして我に帰り起きた時、別の世界から自分が戻ってきたような気がします。そんな不思議な感じがつかしく、(人間に恋をした魚が、人に憧れ仲間になりたいという望みを持ち、やがて希望がかなえられ、人間に生まれかわる事ができ、人間との恋が成就するが、臉をあけてゆつくり自分の姿を見ると、やはり元の魚であった。)今まで見た光景は、魚が目を閉じて見た心の夢であった。)という物語にイメージされて作曲しました。

[尺八] 三橋貴風・添川浩史
[二十絃箏] 吉村七重・大畠菜穂子
[十七絃] 久東寿子

5. 見 目 順 一 朗

「葫蘆藤(うるてん)」三本の尺八の為に(初演)

題名は『正法眼蔵』『葛藤』の巻からで、つる草の絡まり合う意。独立した三本の同時演奏という着想をここから得た。この曲を契機に音楽における様々な次元での特有性と通有性、禅という差別即平等について、“場(西田哲学の“場所”)"という概念や“流れ(時間的な場との帰属関係)”という概念を足掛かりにして考えるようになった。

[尺八] 坂田誠山・米澤浩・石田忠史

6. 宗 像 和

「水」第4——六奏者のための（初演）

「水」シリーズは1982年の第一からこの夏までに三作ある。その発想は広島、長崎で1945年のあの時に「水・みず…」と訴えたあの人達に飲まれた水、飲まれなかった水、ひとしくあの光景を目撃した「水」たちは今日でも地球のどこかに漂っており、その心をうたおうとしたものである。この第四は'91年の秋につくられた。

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 坂田誠山
[三味線] 坂口美香 [筑前琵琶] 田原順子
[箏] 山田明美 [十七絃] 宮越圭子

7. 川崎絵都夫

シランパ・カムイ

シランパ・カムイとはアイヌ語で「森の神」という意味です。鬱蒼とした北国の森に思いを馳せ、失なわれてゆく樹々に心を寄せて作曲した一連の曲の中に登場する小品を、今回は邦楽器の合奏によって聴いて頂こう、と思います。

曲は深々とした森を表わすような尺八の二重奏による序奏とシランパ・カムイを表わすオスティナートの部分的な2つから成っています。

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 米澤浩・石田忠史
[琵琶] 半田淳子
[二十絃箏] 熊沢栄利子・桜井智永 [十七絃] 外山香
[打楽器] 望月太喜之丞・臼杵美智代・
川崎絵都夫（シンセサイザー）

8. 眼 龍 義 治

響 愁（初演）

富山県高岡市周辺の伝統芸能「獅子舞」の音楽を素材としています。

この獅子は大人4人（8本足になる）で使う、大変大きな獅子です。それを「稚児」と呼ぶ少年が戦って成敗すると言う、大変勇壮な芸能です。祭りの日は朝から深夜までかけて一軒一軒門付けして廻ります。

この曲の全体の構成は祭りの流れに基づいており、序奏に使った音楽は門付けの道中に使われているものです。

[篠笛] 西原貴子 [尺八] 藤崎重康
[箏] I 白根きぬ子・外山香 II 花房はるえ・佐藤里美
[十七絃] 久東寿子
[太鼓] 臼杵美智代

9. 村 尾 幸 映

参九丸壺——古都・奈良の四季——（春）

（初演）

作品完成年月日（1991年9月23日）各々の後の数から四桁を取ったものがこの曲のタイトルです。春日山を含む奈良東大寺の桜のつぼみに春の光がふり注ぎ万物の生気がみなぎる四月を迎える奈良の春を描いてみました。暖かい風に誘われて小鳥が喜々と歌う。厳しい冬を越した小さな生物が躍動するうらかな小径。寺院の鐘がかすかに響く…。のんびり草を食む鹿の群、太陽が昇り準備を整えた奈良公園に観光客が訪れ楽しい一日が始まる。

[尺八] 三橋貴風・添川浩史
[二十絃箏] 宮越圭子・大島菜穂子
[十七絃] 久東寿子

10. 大 政 直 人

Evening Shadows（夕影 II）（初演）

この曲は Evening Shadows I（尺八、琴）、III（尺八2、琴2）の間に位置する曲です。IとIIIが速めのテンポなのにに対し、IIは緩徐楽章の意味合いを持っています。このシリーズは、邦楽の祭典のたびに1楽章ずつ作曲していたため、3年かかってやっと1曲が完成した事になります。その間に邦楽に対する理解が自分なりに深まったと思うのですが、作品としての統一感のため、あえてウブな気持ちで作曲しました。ところでどなたか、全曲を通して演奏して頂けないでしょうか。

[尺八] 坂田誠山
[箏] 桜井智永
[二十絃箏] 熊沢栄利子

11. 佐 野 芳 光

尺八・三味線・十七絃・二十絃のための

「ロックスピリッツ」（初演）

ハードロックの元祖ジミヘンドリックスの「紫のけむり」をある弦楽四重奏団が演奏して話題になりましたが、音楽のジャンルは今後ますますカベが少なくなって、互いに理解し接近していけるようになると思います。ジミヘンドリックスをギターの手と仰ぐ私はロック側からのアプローチで邦楽作品を書いてみたいと思い「ロックスピリッツ」を作曲しました。

[尺八] 藤崎重康
[三味線] 太田幸子
[二十絃箏] 吉村七重
[十七絃] 宮越圭子

12. 杉 浦 正 嘉

月華の庵（げっかのいおり）（初演）

合掌作りの里岐阜白川、卒塔婆峠を下りきった所の見事なススキの原。夜、灯りを消した庵の窓より見れば、明るく華やかな月光をあげ、そよ風にゆれて光るススキの穂波は、見る人の心に夢幻無言に語りかける。独去独来、君見ずや、絶学無為の問道人、妄想を除かず真を求めず、証道歌と。華やかな月光に輝やくススキの穂波の一話より。

[篠笛] 竹井誠
[細棹三味線] 太田幸子

13. 小 橋 稔

神 舞（かみまい）（初演）

いにしへ、日本人はこの音に寄せて神のことの葉を聞いたと言います。

神の心にかなうことのねをあわせ奏でて、神のことの葉とともに神の舞いを招き、地球に自然を、人類に平和をと、祈ること切なるものがあります。

まみどりの葉や まいまいの 舞いのあと

[尺八] 藤崎重康・竹井誠・添川浩史
[箏] 白根きぬ子・花房はるえ・大島菜穂子・山田明美・
佐藤里美
[指揮] 田村拓男

日本音楽集団今後の主な予定

3月11日(水)	日本音楽集団若葉マーク・コンサート(その7)	日暮里サニーホール
4月19日(日)	日本音楽集団演奏会	やしろ国際学習塾L.O.C.ホール(兵庫県社町)
4月25日(土)	日本音楽集団演奏会	刈谷市アイリスホール(愛知県)
5月11日(月)	第123回定期演奏会——春の総合定期	芝abc会館ホール
5月21日(木)	名フィル第174回定期で「急の曲」(三木稔作曲)を共演、指揮・M.アッツモン	名古屋市市民会館
6月30日(火)	第10回「現代日本音楽の展開」に出演(主催=国立劇場)	国立劇場大ホール
7月9日(木)	第124回定期演奏会——ファンタスティックコンサート(大江戸音楽考察)	津田ホール
7月13日(月)	日本音楽集団演奏会	グリーンホール相模大野
10月6日(火)	第125回定期演奏会——清水脩の音楽	朝日生命ホール
11月24日(火)	第126回定期演奏会——三木稔の音楽	津田ホール

1993年

邦楽器の祭典パートⅣ(第127回定期演奏会 共催=(社)日本作曲家協議会)次回予告

1993年1月28日(木) 津田ホール

1992年度研修生募集中!!

古典から現代の日本音楽の演奏を、ソロからアンサンブルまで、プロの演奏家として東京中心に団の活動に恒常的に参加できる方。又、理論、作曲面で活動に参加できる方を募集。応募締切3月6日(金)、オーディション3月23日(月)。募集要項ご入要の方は演奏会場で。あるいは、事務所へお申し出下さい。

「邦楽現代」休刊のお知らせ

毎年春秋に発行していました機関誌「邦楽現代」は都合により、しばらく休刊させていただきますのでご了承下さい。

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437